

使令動詞と使役助動詞

——中国語の使令動詞と日本語の使役助動詞との比較対照——

陳 月 吾

Passive and Causative Verb Forms

CHEN YUEWU

Comparing the grammatical similarities and differences in the use of Chinese verbs “SHI”, “RANG”, “JIAO”, and that of Japanese auxiliary verbs “SERU”, “SASERU”, “SHIMERU” in constructing causative and imperative sentences.

中国語の使令動詞は「使」「讓」「叫」がある。日本語の使役助動詞には口語は「せる」「させる」「しめる」、文語は「す」「さす」「しむ」がある。日本語を勉強する中国人或は中国語を勉強する日本人にとっては相手の使役態を上手に使うにはさほど簡単ではないようである。その使い方は対応しているところもあるし異なっているところもある。本稿では中国語の「使令動詞」と日本語の「使役助動詞」との使い方を考察して、その間の異同を比較対照しようと思う。

1

「使」「讓」「叫」という三つの言葉は現代中国語のいわゆる「使令動詞」である。即ち「使役態」として使われる場合、この三つの言葉は動詞である。もちろん「副動詞」か「次動詞」と名付けた人もいるが、本稿では中国の普通の言い方「使令動詞」にする。その使い方は次の通りである。

1-1 他にその動作を行わせる意、即ち使役の意を表わす。

- 老師讓學生用日語寫論文。／先生が学生たちに日本語で論文を書かせる。
- 主任叫我到上海出差。／主任は私を上海へ出張に行かせる。
- 為了使汽車停車或減速，需要有制動器。／自動車を停止せしめたり，減速せしめたりするために制動器が必要である。
- 那件事要是讓他做的話，一定會做好的。／その仕事はあの人にやらせば，きっとうまくやれるだろう。

- 父親叫弟弟幫助工作。／父は弟に仕事を手伝わせる。

以上の例文は、使役者は相手の都合を考えずに自分の思うままに被使役者になにかさせるので、一般には目上の人が目下の人になにかをさせることになる。なんと言っても強制するイメージが与えられるようである。こんな強制する「使役」よりもうすこしていねいな言い方がある。

- 請小張介紹了訪日情況。／張君に訪日した様子を紹介してもらった。
- 我想請他把信投到郵筒里。／彼にこの手紙をポストに入れてもらいたいです。
- 我讓妹妹給我整理了房間。／私の部屋を妹に片付けてもらった。

1-2 他の動作に対する不干渉・許容、放任などの意を表わす。

- 讓他好好想一想。／彼によく考えさせてください。
- 如果他想去就叫他去好了。／彼が行きたかったら、彼にいっしょに行かせてもいい。
- 難得休息一天，讓他玩吧。／せっかくの休みだから、思いっきり遊ばせてあげよう。

以上は、不干渉・許容・放任などの意である。即ち他人に強制される語感とは全然なく、動作をする人の願望によってなにかすることになる。この場合、動作をする人は第一人称「我」でもいい。

- 那個問題讓我來回答吧。／その問題については、私に答えさせてください。
- 讓我和大家一塊去好不好？／私もみなさんといっしょに行かせていただけませんか。

1-3 使役の意はなくて、ある事によってある状態・作用を引き起こす意を表わす。

- 我上次住院，讓大家擔心了。／この前、私が入院したことでみなさんを心配させた。
- 開會去了，叫您久等了，真對不起。／会議でしたので、お待たせしまして、どうもすみません。
- 他會說奉承話叫人高興。／彼はお世辞を言って人を喜ばせるのが上手である。

1-4 使役動詞の「讓」は願望を表わすことができる。英語の「Let us」に該当する使い方である。

- 讓我們尽情地唱，尽情地跳吧。／楽しく歌ったり、踊ったりしましょう。
- 讓我們世代友好下去吧。／私たち世代代まで仲良く付きあっていきましょう。

以上は、「使」「讓」「叫」の「使役動詞」としての使い方であるが、現代中国語の「叫」「讓」は「受身」の意も表わすことができる。この場合は動詞ではなくて、「介詞」とされるのである。日本語では「格助詞」に該当する。

- 地上的水叫太陽晒干了。／地面の水は日に照らされて乾いた。
- 他讓人家給騙了。／彼は人にだまされてしまった。

2

日本語の使役態は動詞の未然形に使役助動詞が付いて表わされる。今一般に使役助動詞と言われているが、その性格が接尾語に近く、橋本文法においてもこの点是指摘されているが時枝文法をはじめ、接尾語として扱う文法論も少なくない。本文では使役助動詞としている。日本語の使役助動詞の口語には「せる」「させる」「しめる」、文語には「す」「さす」「しむ」がある。その使い方は次の通りである。

2-1 他にその動作を行わせる意、つまり使役の意を表わす。

- 老人が少年に少女を助けさせる。／老人讓少年幫助少女。
- ただいま台所で食器を洗わせております。／現在正叫他在廚房洗碗。
- 親が息子の言うことを聞かないで、無理に高校へ行かせたんです。／父母不由分說硬是讓兒子上高中。
- その言葉があまり面白くて、皆さんを笑わせた。／那話太有趣了，使大家都笑了。

2-2 ある状態・作用を引き起こす意を表わす。

- 私たちが訪ねに来たことは余程主人の心を喜ばせた。／我們來訪使主人心里好高興。
- 朝寝坊をして、友達を一時間待たせてしまった。／睡懶覺讓朋友等了一個小時。

2-3 他の動作に対する不干渉・許容・放任などの意を表わす。

- 見たければ見させてやれ。／想看就叫他看吧。
- 黙って山に行かせておいてはあぶないよ。／不加制止讓他進山是有危險的。
- 子供たちに悪くなったものを食べさせると病気になりますよ。／讓兒童吃變質的食品會生病的。

2-4 他の尊敬語とともに用いられて、最上級の尊敬を表わす。

- 殿下は始終静かな微笑をたたえさせられ、患者の一人一人にねぎらいのお言葉をたまわった。／殿下始終含着微笑，親切地安慰着每一個患者。

2-5 使役助動詞にさらに「受身助動詞」がついて「使役・受身」になり、動作主の自発する行為かまたはそうするより仕方がない意を表わす。

- あの報告を聞いて、ぼくはすっかり考えさせられてしまった。／聽了那個報告，我不由得陷入了深深的沉思。
- 彼の好意にまったく感心させられました。／對他的好意我深為感動。
- 目の不自由になった主人に毎日小説を読ませられる。／每天不得不給眼睛看不見了

的丈夫読小説。

2-6 自動詞に使役助動詞がつき、他動詞として使われる。日本語には一部の自動詞はそれに対応する他動詞はない。しかし他動詞として使うにはこれらの自動詞に使役助動詞を付けて、他動詞として使われることがある。

- 買った電気製品は押入れに眠らせておかないで、できるだけ働かせたほうが機械のためにもいい。／電器産品買來後，不要放進壁櫥不用，应尽量開動使用，這樣對機器也有好處。
- 運命のいたずらが彼の人生を狂わせた。／命運的捉弄，弄得他人生坎坷。
- 生活水準を向上させる。／提高生活水平。
- 物価を安定させる。／穩定物價。

3

前述では中国語の使令動詞と日本語の使役の助動詞の使い方についてそれぞれ述べたが、次はその対応しているところを見ることにする。

3-1 使役の意を表わす場合

- 不能使問題不了了之。／事件をうやむやにさせてはいけない。
- 医生叫病人睡到床上。／医者は患者をベッドに寝させた。
- 晚上九点，讓工友閤上大門。／夜の九時には用務員に門を閉めさせる。
- 恭子大概想讓稻村家的千金表演茶道叫菊治看。／ちか子は稲村令嬢に点前をさせて菊治に見せようというのだろう。

3-2 ある状態・作用を引き起こす場合

- 失口講了不礼貌的話，使他生气了。／うっかり失礼なことを言って、彼を怒らせた。
- 為了不叫兒女受委屈，母親一人挑起了家庭的重担。／子供たちをいじけさせまいと、女手ひとつで頑張った。
- 讓他費心不少，真对不起。／彼にいろいろと心配をかけさせて、ほんとにすみません。

3-3 他の動作に対する不干渉・許容・放任などの意を表わす場合

- 讓学生看自己喜歡看的書。／学生たちに自分の好きな本を読ませる。
- 最好叫病人休憩，直到完全恢復健康。／病人はすっかり回復するまで休ませておくほうがいい。
- 想說的就讓他說好了。／言いたいことは勝手に言わせるほうがいい。

4

以上は使い方の対応しているところであるが、次は、対応できないところ、即ち異なっているところである。

異なりとなるとまず最初に指摘しなければならないのは、品詞の異なりだと思う。中国語の「使」「讓」「叫」は独立の動詞で、「使令動詞」と呼ばれているが、日本語の「す」「さす」「しむ」「せる」「させる」「しめる」は助動詞である。接尾語という説でもある。助動詞だから独立して述語にはならないのである。

4-1 中国語の「讓」は願望の意を表わすときには、日本語では使役助動詞を使わずに願望を表わす言い方を使うのが普通である。

- 讓我們共同努力吧。／一緒に頑張りましょう。
- 讓我們比一比誰的字写得最好？／だれの字が一番上手か較べてみよう。

4-2 文には「間接引用文」のある場合、中国語の使令動詞は間接引用文の動詞になり、こんな文を日本語に訳すときには「間接引用文」を「直接引用文」に訳し、「使」「讓」「叫」は「言う」「注意する」「頼む」などの動詞に訳するのが普通である。

- 老師叫學生上課不要睡覺。／授業中いねむりをしないように学生たちが先生から注意されました。
- 他讓我不告訴別人。／彼からほかの人に教えないでくれと頼まれました。
- 主任叫你馬上去辦公室。／主任がすぐ事務室に行ってくれと言っていた。

4-3 中国語の文には目的・手段などの関係のある場合、即ち「使令動詞」の後に目的で、その前は目的に達する手段か方法である。しかし手段か方法がよく省略される。日本語では使役助動詞を使わずに「……ようにする」で表わすことが多い。

- 使學生的會話能力得到快速提高。／学生たちの会話能力を速やかに高めるようにする。
- 請当心平時不要叫老人劳累。／年よりが普段疲れないように気を付けてください。
- 把院子打掃干净，好讓大家度過愉快的周末。／みんなが楽しく週末を過ごすように庭をきれいにしてください。

もちろん中国語には「要使」「為使」ははっきりと目的と手段の関係を表わす。これを日本語に訳すと「……には」「……ために」になる。

- 為使學生的聽力提高，老師應用外語講課。／学生たちの聴力を高めるには、先生が外国語で授業をしなければならない。

4-4 中国語の使令動詞の後の部分が変化した結果が状態を表わす場合、日本語は使役助動詞を使わずによく「……を……に（と）する」という文型で表わす。

- 每天早上散步使身体結実了。／毎朝散歩して体を丈夫にした。
- 我們準備讓他当班長。／私たちは彼を級長にするつもりです。
- 父親叫兒子将来当医生。／父親は息子を将来医者にする。

4-5 中国語に因果関係がある場合、一般に「叫」「讓」を使わずに「使」だけ使う。「使」の前は原因、後は結果である。日本語に訳したら使役助動詞を使わずに「……によって」「……のために」「……のおかげで」などでその原因を表わすのが普通である。

- 由于全体人員的共同努力和密切合作，使試驗獲得了圓滿成功。／全員の共同努力とご協力によって、実験は大成功を収めた。
- 在他的關照下，使問題馬上解決了。／彼のおかげで問題がすぐ解決された。

以上の4-1, 2, 3, 4, 5は中国語では使令動詞を使い、日本語では使役助動詞を使わないものである。次は日本語では使役助動詞を使い、中国語では使令動詞を使わないものである。

4-6 日本語の昭部の自動詞は未然形に「す」「さす」が付き、使役の意味がなくただ他動詞として使われるだけである。これらの他動詞は辞書にも載せてある。こんな場合、中国語は一般に「使令動詞」を使わないのがそれに対応する他動詞があるからである。

- 洗濯物を乾かす。／晒干洗了的衣物。
- ごみを勝手に散らしてはいけない。／不要乱倒垃圾
- 計画を漏らす。／泄漏計画。

一部の自動詞の未然形に「せる」「させる」が付き、使役の意味はなくて、他動詞として使われる場合、中国語は「使令動詞」を使わずに対応する他動詞で表わすのである。

- 列車の運転士さんが汽車を走らせる。／火車司機開動火車。
- 梅雨前線が山間部に雨を降らせた。／梅雨季節已到山区，那兒下了雨。

特に一部のサ変動詞の語幹に「させる」が付き他動詞になる場合、中国語では使令動詞を使わず、他動詞で表わす。逆にこんな中国語を日本語に訳すときに「させる」を付けなければならないのである。

- 教育を普及させる。／普及教育。
- 經濟を發展させる。／發展經濟。
- 敵を孤立させる。／孤立敵人。

4-7 日本語の使役助動詞がほかの敬語動詞とともに最上級の敬意を表わすことができるが中国語の使令動詞にはこんな使い方がない。

- 熱心に聞かせられた。／熱心傾聴。

4－8 日本語の動詞の未然形に使役助動詞が付き、その後にもた受身助動詞が付いて「使役・受身」の意を表わすが、中国語には「使役・受身」という使い方はなくて対応できないのである。

- 今日、先生に一時間も立たせられたので、恥ずかしかった。／今天，老師罰我站一個小時，太不好意思了。

以上は中国語の「使令動詞」と日本語の「使役助動詞」の使い方を考察し、それを比較対照した。その比較対照から、その使い方としては一致しているところもあるし、異なっているところもあるなど、その異同性が、はっきり検出される。日本語を勉学する中国人、或は中国語を勉学する日本人の方々にご参考になれば誠に幸いである。

主な参考文献

- 1) 呂叔湘『現代漢語八百詞』
- 2) 黄伯榮・廖序東『現代漢語』（下）
- 3) 王 力『中国現代語法』
- 4) 「日語学習和研究」1981年3月号，4月号，1982年1月号，1985年6月号，1990年5月号
- 5) 森田良行『基礎日本語』
- 6) 北原保雄等『日本文法事典』
- 7) 岩波講座 日本語 7 文法Ⅱ
- 8) 金田一春彦等『国語大辞典』

（平成3年10月29日受理）